

令和8年3月31日

(宛先)志摩市議会議長

会派名 新風
代表者氏名 小河 光昭



政務活動費実績報告書

志摩市議会政務活動費の交付に関する条例第7条の規定により、下記のとおり令和7年度政務活動費に係る調査研究、研修、要請・陳情活動の実績について報告します。

記

1 実績報告の期間

令和7年11月1日～令和8年3月31日

2 調査研究、研修、要請・陳情活動の概要

・研修

マリンテックサミット2025 令和7年11月14日

○基調講演、パネルディスカッション1～3、ピッチコンテスト、親睦会

このサミットは、「海の技術で次の100年を創る」をテーマに、阿児アリーナにおいて気候変動・海洋汚染・人手不足・漁獲量の減少など、海にまつわる課題を、さまざまな専門家と考える1日として開催された。

今後の水産業の抱える課題克服のヒントを得られればとも思いから参加した。



「ふるさと住民登録制度」議員カンファレンス2026

令和8年1月15日

「ふるさと住民登録制度」は、総務省が来期から創設を予定している新制度である。実際に居住していなくても、その自治体と継続的な関係を持つ人（関係人口）を「ふるさと住民」として登録できる仕組みである。登録者は、地域情報を受け取ったり、公共施設の利用が住民価格になったりと、地域への関与を深めることができ、これは従来の住民票とは異なり、自治体が自由に制度設計できる柔軟なシステムで、地方創生の観点から、地域の担い手確保や経済活性化を目指すものである。

この新制度について学ぶため、「ふるさと住民登録制度」に関する議員カンファレンス2026に参加した。

・視察研修

美郷バレー構想の取り組みを学ぶ（美郷町） 令和8年2月9日

「何もない町にある無限の資源と可能性」をコンセプトに美郷バレー構想を作成し地域おこしに努めている島根県美郷町。山間部にあることから、獣害対策に力を入れ、官学連携等も行い「この何もない辺境の地に唯一あったものが『知恵』『ノウハウ』という無限の可能性をもった資源でした。」と言える発見を基に知恵を出す大切さを重視していた。

その取り組みが「山くじら」と呼ばれる猪のブランド化であり、肉はもちろんのこと皮までを製品化している。その取り組みは、肉は町の食堂で提供され、革製品は高齢女性が縫物を担当して製品化までこぎつけていた。

志摩市はあるもの探しを主張した地域おこしをしていることから、共通する部分はあると思われること、また、獣害対策としての共通課題に対しどのような対策を取っているのかについて聞き取り調査を行うため、その取り組みについてのレクチャーを受けた。

就業支援等を行っている、移住・定住の取り組みを学ぶ（津和野町）

令和8年2月10日

志摩市も全国の自治体同様に移住定住に向けた取り組みを行っているが、必ずしも成功しているとは思えない。そのため、移住・定住についての支援や相談体制がしっかりしており、移住体験や就職支援まで行っ

ている津和野町の取り組みを参考とするため視察に訪れた。

津和野町の移住定住のための住宅支援は手厚く、民間授業者が町内の空き家をリフォームし月々3万円の賃貸住宅として貸し出す支援や、町が建設した住宅を移住するために入居した場合、25年間住み続ければその住宅を譲渡する制度まで創設していた。また、移住していただくための就農支援など就業相談等にも力を入れており、移住しても生活に困らない対策を講じていた。しかし、住宅譲渡の制度は、地域住民から不満の声もあるなど就業支援対策にはどこの自治体とも同様に苦慮していた。